

# 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕



出願人又は代理人 の書類記号 R-79	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2 0 0 4 / 0 1 4 4 4 0	国際出願日 (日.月.年) 24.09.2004	優先日 (日.月.年) 24.09.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> F16K49/00		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社フジキン		

<p>1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>3</u> ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で _____ ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）。</p> <p><input type="checkbox"/> 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとのこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ （電子媒体の種類、数を示す）。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）</p>	
<p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 国際予備審査報告の基礎</li> <li><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</li> <li><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告的不作成</li> <li><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</li> <li><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</li> <li><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</li> <li><input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</li> </ul>	

国際予備審査の請求書を受理した日 18.04.2005	国際予備審査報告を作成した日 02.08.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区役が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 渡邉 洋	3 Q	9 3 3 1
	電話番号 03-3581-1101 内線 3381		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

## 第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-3	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

## 〔文献一覧〕

文献1: J P 10-299943 A (株式会社フジキン),  
1998. 11. 13, 全文, 第1-8図  
文献2: J P 5-60264 A (国際電気株式会社),  
1993. 03. 09, 全文, 第1-2図

## 〔請求の範囲1〕 文献1, 2

上記文献1には、ヒータ(12)を内蔵しかつ加熱すべき流体制御器(1)を両側から挟持する一対の保持部材(14, 15)を備えている加熱装置を使用し、ブロック状ボディ(2)の側面に突出状継手部(6)を有しかつ頂面に操作駆動部(3)が設けられた流体制御器用加熱装置及び加熱方法が記載されている。

上記文献2には、流体制御器(図面参照)のボディ(2)の底面(図面参照)の温度(温度センサ32参照)を制御しながら、ボディ(2)を両側面(弁箱ヒータ31)から加熱する流体制御器の加熱方法(公報第3頁段落【0024】参照)が記載されている。

上記文献1の流体制御器の加熱方法に対して上記文献2に記載されているような底面の温度を制御しながら加熱を行う加熱方法を適用し、請求の範囲1に係る発明とすることは当該技術分野の専門家にとっては自明の手段であると認められる。よって、請求の範囲1に係る発明に進歩性は認められない。

## 〔請求の範囲2, 3〕 文献1, 2

上記文献1に記載の流体制御器用加熱装置においては、保持部材(14, 15)に継手部(6)を収める継手収納用凹所(収納凹所22)が形成されている。なお、上記文献1の流体制御器用加熱装置の構成から見て、文献1の加熱装置は、流体制御器のボディだけでなく継手部も加熱可能であると認められる。

また、上記文献1の流体制御器用加熱装置において、所望の部分の温度を高めること、すなわち、ボディの両側面の底面側、頂面側および中央部分のうち、中央部分が相対的に高温となるように加熱することは当該技術分野の専門家において設計的事項であると認められる。

よって、請求の範囲2及び3に係る発明に進歩性は認められない。